

タウンミーティング記録 未来へつなごうふじみ野市

日 時 平成 31 年 2 月 17 日（日）午前 10 時～11 時 30 分
場 所 福岡中央一丁目町内会集会所（福岡中央一丁目町内会）
参加者数 24 人



主な意見等

参加者 福岡中央一丁目町内会は自治会加入率が 43% と低い状況です。しかしながら、町内会で行うイベントには未加入世帯の参加が増えてきており、用意したけんちん汁やお餅なども時間前になくなるなど活発になってきました。市から事業費補助として 16 万円交付してもらっていますが、このような状況の中で様々な事業を展開していくのは難しい状態です。事業費補助として 1 事業分くらい増やしていただき、20 万円くらいに増額してもらえれば自治会加入促進に向けて色々な事業を実施できると思いますので検討をお願いします。

市長 夫婦共稼ぎであったり、子どもが小さかったりといった様々な事情がある中で、役員が回ってきたら困るだとか集金するのが嫌だとかで自治会への加入をためらう人もいますようです。

自治組織ということで、みんなで助け合い、自分たちで行うというのが基本になりますが、その輪が小さくなってきたので膨らますための予算が必要だという意見は一理あると思います。金銭面のみ

ならず、工夫をしながら要望が少しでも叶うよう考えていきたいと思ひます。

参加者 イベントや自治組織加入に関しては近所の方からの誘ひが一番効果があると思ひます。

市長 そういったきっかけづくりになるイベントができれば効果的ではないかと思ひます。

参加者 市議会だよりの12月号を見て、議員が一般質問で60数項目の質問をしていましたが、その答弁の約4割が、「研究する」「検討する」「研究したいと思ふ」「検討したいと思ふ」というものでした。深いところまで議論がされておらず、市民が期待していることが、どういう形で実現されていくのかよく見えてきません。行政特有の風土があるのであれば、変わっていくといいなと思ふのですが。

市長 一般質問は様々な分野に関して提案や提言を行うものですが、他市町村で実施しているものを本市に取り入れたらどうかといったものもあり、市の実態に即していないものも多くあります。

研究、検討、検討に向けて調査など、質問時間も限られている中で、まだ結論として明確な答えができないときに使われています。検討すると答弁したのなら、一定期間掛けて検討は行いますが、答えが出る場合もあれば出ない場合もあります。限られた時間の中で詳細な議論までし尽くせないというのが実態としてあるため、細かい案件についてはまず取り組みの姿勢を示す形となっています。

参加者 「はらっぱ」という環境情報誌を作っている団体に所属しています。都市化が進み、緑地が減っている中でも、新河岸川沿いの権現山や、大井弁天の森、狭山市の堺の辺りの雑木林など、市の周囲には緑が残っています。そうした緑地をうまく活かしていけないでしょうか。

市長 公園の新設や拡大は難しいですが、隣接する公園同士を遊歩道などでつなぐことで緑を増やしていければと思ひます。

参加者 自治組織に入ることを促すよう条例等で規定できないのでしょ

うか。

市 長 促進することはできますが、強制まではできません。
市でも、以前は転入者に対して、自治組織は任意加入と説明してきましたが、地域コミュニティの重要性を訴え、加入してもらえよう精一杯お知らせをしています。

被災し、避難場所などで炊き出しをしたときには加入の有無で分け隔てはなかなかできないと思います。何か起こった時に支え合いの重要性を知るのではなく、常日頃から皆で力を合わせる機運をどう高めていくかが大切だと考えています。

参加者 会員募集のリーフレットを11月頃にいただき配布しています。防災訓練の参加の呼びかけと会員募集を一緒に行ったらどうかと思うのですが。

市 長 防災訓練の時にそういった勧誘を合わせて行うのは良い案だと思います。震災直後に「災害に強いまちづくり」というテーマでタウンミーティングを行ったときにも、マンションで自治組織を結成したいという話がありました。建物の耐震性はあったものの、高層マンションであったため停電により給水ポンプが動かず水の確保が大変だったことから、地域での助け合いの重要性を実感し、結成に繋がったようです。

参加者 子ども2人に自閉症の障がいがあり、長年作業所に勤めていましたが、就労支援センターの助けもあって、去年の1月から2人とも同じ一般企業に入ることができました。

しかし、私たち親がいなくなった時にどうなるのか、先が見えず不安を感じています。市のグループホームや施設には空きがなく、他県へ行かざるを得ないと言われました。市内には施設の数足りていないのではないのでしょうか。

市 長 全国的にも施設の数足りておらず、残念ながら当市でも同様の状態です。2市1町で支援している入間東部福祉会で、市内にグループホームを1か所整備する予定となっていますが、それでも全く足りていません。社会的な支援が必要な方が多くいる中で、施設といったハード面を整備することだけがすべてではなく、支援する仕

組みを手厚くしなければならぬと感じています。

それに向けて来年度も地域力強化推進事業を新規事業として行う予定です。施設ばかりを作っていくことは物理的にも財源的にも難しいので、今ある施設を使いながらどういう形で支援ができるのか、その仕組みづくりに力を入れていこうと考えています。

参加者 公民館使用料の資料を見て、本来なら、使用料はこのくらい取りますが、社会教育団体であれば減免制度により無料で貸し続けているということが分かりました。この前行われた上福岡公民館の改修や大井中央公民館の建て替えに関する説明会での話も聞き、公民館を利用して活動している人たちは減免制度がなくなるのではないかと感じています。

公共施設を維持していくために1人1万円近くの税金を負担しているとの説明がありましたが、みんなで学ぶ場所として、公民館本来の目的である社会教育施設としての減免制度を維持してもらいたいと考えます。

市長 お金を皆で出し合わずに済むならばそれに越したことはありませんが、税として入ってきた限られたお金の中でさまざまな行政サービスを行っていかねばなりません。

ただ、いただいた税金ですべてのサービスを賄うことは難しい時代にもなってきました。そのため、皆さんで出し合った税金の中で何かを削りながらも保障されるべきものを守っていくこととなります。

先ほど示した使用料は、行政財産のコストから計算するとかなり安い設定となっています。改修したところから使用料を変えていこうということで、改修を終えたスポーツ施設では既に新たな使用料を設定し、負担していただいています。公民館については、料金を上げるのではなく、今まで決めていた料金ぐらいを皆で出し合えないかなという説明を、タウンミーティングの中で行ってきています。

公民館の施設予約においても使用料がかからないため、予備日の予約をキャンセルせず、使われなままの部屋も出てきてしまっています。

公民館は1人では使わないと思うので、少しずつでも負担しあってもらえればと考えてます。

参加者 かつては、市の体育施設の利用料金が安すぎて近隣のまちの住民が市内の施設に流れてきたことがありました。都市間競争ではないですが、近隣とも価格を合わせないと他のまちから利用者が参入してきて、市民が使いたいときに使えないということが起こってしまいます。

市 長 そういった問題が起こらないように近隣市町の料金体系も注視していきます。

参加者 福岡中央公園の砂場の砂ですが、マンション建設が原因で風向きが変わり、砂が外の道路に出てしまっています。

 昨日、砂を2台分入れてもらいましたが、何年かかけてそれだけの砂が出てしまっているようです。

 砂埃もひどくなるので、出てしまった砂を取ってほしいと思います。

市 長 現地を確認し、同じことの繰り返しにならないよう、場合によっては砂が外に吹き出さないような柵などの設置を考えていきたいと思えます。